

OmniPass Enterprise Edition V5



クライアントユーザー用マニュアル

第1.0版

2022.05



OmniPassEE クライアント導入ガイド

OmniPassEE クライアントを導入するには、次の手順が必要です。

- OmniPassEE クライアントアプリケーション(以降 OmniPass)のインストール。
⇒ 8 頁へ
- OmniPassEE クライアント PC の接続。
⇒ 「3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続」
- OmniPassEE クライアントユーザーの登録。
⇒ 「3-3. OmniPassEE クライアントユーザーの登録」

※ Windows11/10のログオン認証機能であるWindows HelloとOmniPassを同時に使用することはできません。(別途配布のSREX-SDK4でも同時にご使用いただけません。)

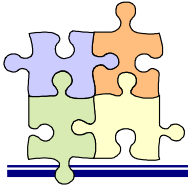
目次

第1章 はじめに	
1-1. 安全にお使い頂くために	4 頁
第2章 準備	
2-1. マニュアルの構成	7 頁
第3章 登録	
3-1. OmniPass インストール	8 頁
■OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール	
■OmniPassEE クライアントアプリケーションのアンインストール	
3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続	12 頁
■クライアント PC の登録	
■OmniPass 用のアイコンについて	
3-3. OmniPassEE クライアントユーザーの登録	14 頁
■クライアントユーザーの登録	
■OmniPass 認証ダイアログ	
第4章 使用	
4-1. アカウント情報の記憶	19 頁
■Web ログオンパスワードの記憶	
■アプリケーションログオンパスワードの記憶	
■ID の管理	
4-2. 暗号化と復号化	28 頁
■暗号化	
■復号化	
■暗号化ファイルの共有	
第5章 管理と設定	
5-1. ユーザーの追加と削除	33 頁
■ユーザーの追加	
■ユーザーの削除	
5-2. アカウント情報の管理	35 頁

■ユーザープロファイルのバックアップ

■ユーザープロファイルの復元

-
- 5-4-1. ユーザのデバイス登録の変更
 - 5-4-2. 認証デバイスの必須設定
 - 5-4-3. 緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする
 - 5-4-4. OmniPass へのログオン設定
 - 5-4-5. 暗号化／復号化の設定
 - 5-4-6. サウンド設定
 - 5-4-7. タスクバーヒントの設定
 - 5-4-8. 認証ウィンドウの設定





第1章 はじめに

1-1. 安全にお使い頂くために

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本マニュアルでは、いろいろな表示をしています。これは、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するために目安となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、データを失ったり、機密を要するデータが公開されたり、システムへのアクセスを拒否される等の危険があります。
	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、本製品の機能が損なわれ、本マニュアルに記載された手順通りの動作ができなくなる可能性があることを示しています。

ご使用上の注意事項

■接続時のご注意

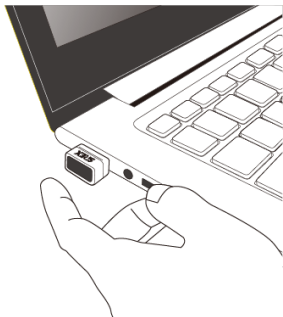
- ①1台のパソコンに同一の指紋センサーを複数接続しないでください。
- ②USBハブに接続して使用する場合は、セルフパワー電源タイプ（ACアダプタなどで電源が供給されるタイプ）のハブに接続し、直列接続は2段以内にしてください。
- ③他社製の指紋センサーがインストールされている場合は、そのソフトウェアをアンインストールしてから本指紋センサーを接続してください。
- ④指紋認証中に本指紋センサーの取り外しを行わないでください。

SREX-FSU4G 使用時のご注意

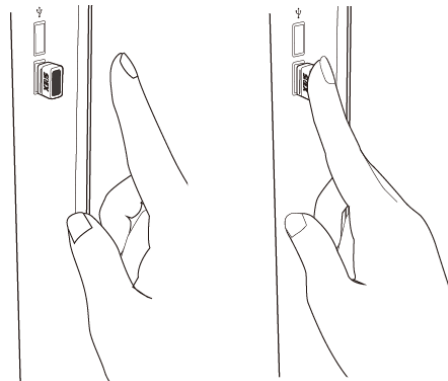
■SREX-FSU4G 指紋取得方法について

360度どの向きからのタッチでも指紋照合可能ですが、指紋センサーの認識率や照合率の精度を保つために、下図を参考に指を置いてください。

指の腹の部分センサー面の中央に押し当て、指紋取得が完了するまで触れてください。



【センサーが横向きの場合】



【センサーが縦向きの場合】

※次の場合は指紋を認識できない場合や、照合率が低下することがあります。

- ・指が乾燥している場合
- ・指が汗や水で濡れている場合
- ・皮膚が荒れている場合
- ・泥や油で指が汚れている場合
- ・指紋が薄い場合
- ・センサー面にホコリや汚れや水分がある場合

※SREX-FSU4 センサーは本ソフトウェアではご利用いただけません。



SREX-FSU4G
(SREX ロゴ)



SREX-FSU4
(RS ロゴ)

※ご利用いただけません

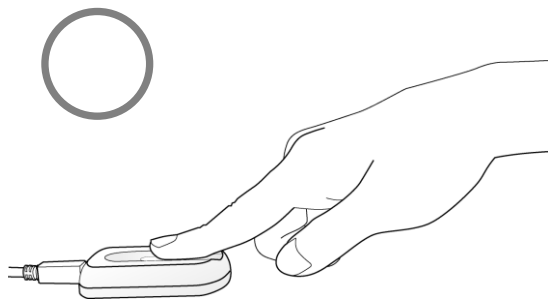
SREX-FSU3/FSU2 使用時のご注意

■ SREX-FSU3/FSU2 指のスライド方法について

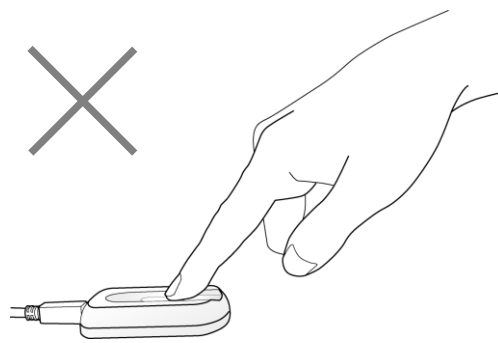
本指紋センサーの認識率や照合率の精度を保つために、下図①を参考に指を置いてください。

指の第1関節部あたりからスライドさせます。

下図②は指の置き方の悪い例になります。指を斜めに置いたり、指の一部しかセンサーに触れていなかったりすると正確に指紋が読み取れません。












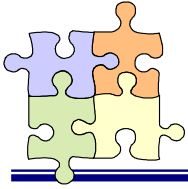
図①. 指の第1関節部あたりからスライド



図②. 指の一部しかセンサーに触れていない

その他のご注意

	①指紋認証技術は完全な本人認証・照合を保証するものではありません。当社では本製品を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
	②本製品はパソコン用周辺機器として設計されております。人命に関わる用途、または高度な信頼性、安全性を要する用途での使用は考慮されておられません。このような用途で使用される設備、機器、システム等への組み込みは避けてください。
	③本書の内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。 また、本書の内容につきましては万全を期して作成しましたが、万一不審な点や誤りなどお気づきになりましたらご連絡願います。
	④本製品は日本国内仕様となっており、海外での保守およびサポートは行っておりません。
	⑤本製品は電子機器ですので、静電気を与えないでください。
	⑥ラジオやテレビ、オーディオ機器の近く、モータなどノイズを発生する機器の近くでは誤動作することがあります。必ず離してご使用ください。
	⑦高温多湿の場所、温度差の激しい場所、チリやほこりの多い場所、振動や衝撃の加わる場所、スピーカ等の磁気を帯びたものの近くでの保管は避けてください。
	⑧製品の分解や改造等は、絶対に行わないでください。
	⑨無理に曲げる、落とす、傷つける、上に重いものを載せることは行わないでください。



第2章 準備

2-1. マニュアルの構成

本マニュアルの第2章「準備」からは、SREX-FSU4G/FSU3/FSU2 指紋センサーとセキュリティ認証ソフトウェア OmniPass を組み合わせて使用して頂く上で最初に行う必要がある準備事項について説明を行っています。

第4章「使用」では、実際に OmniPass を使って頂くための操作方法について説明を行っています。

第5章「管理と設定」では、OmniPass の各種設定項目の解説および運用管理の方法に関する説明を行っています。

本製品をご利用される前に、第2章/第3章で説明されている準備作業を必ず行ってください。

第4章「使用」および第5章「管理と設定」で説明されている項目に関しては、ご使用の目的に合わせて必要となる内容をご参照願います。

本マニュアルは下表のように構成されています。

●第2章 「準備」

●第3章 「登録」

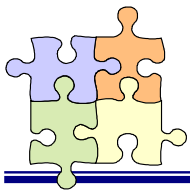
3-1. OmniPass のインストール	インストール、アンインストール手順を説明します。
3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続	OmniPassEE クライアント PC のサーバーへの接続について説明します。
3-2. OmniPassEE クライアントユーザーの登録	OmniPassEE クライアントユーザーの登録について説明します。

●第4章 「使用」

4-1. アカウント情報の記憶	ID とパスワードの自動入力機能の使用方法を説明します。
4-2. 暗号化と復号化	ファイルとフォルダーの暗号化/復号化機能の使用方法を説明します。

●第5章 「管理と設定」

5-1. ユーザーの追加と削除	OmniPass にユーザーを追加/削除する方法を説明します。
5-2. アカウント情報の管理	4-1 で記憶したアカウント情報の管理方法を説明します。
5-3. プロファイルのバックアップと復元	エクスポート/インポート機能の使用方法を説明します。
5-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定	その他の OmniPass 機能を説明します。



3-1. OmniPass インストール

■ OmniPassEE クライアントアプリケーションのインストール



インストールの前に

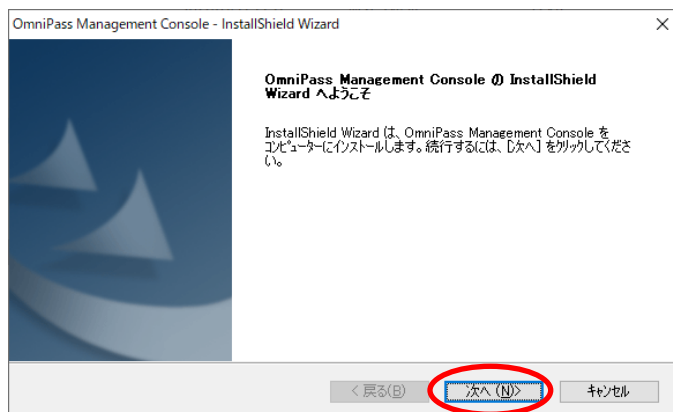
- (1) SREX-FSU4G/FSU3/FSU2 のドライバーは OmniPass をインストールすることで自動的にインストールされますので、別途インストールする必要はございません。
- (2) クライアント PC はあらかじめサーバーのドメインに接続できるように設定してください。
- (3) コンピュータの管理者権限を持つユーザーとしてログオンし、インストールを開始してください。
- (4) OmniPassEE クライアントアプリケーションは管理者より配布されます。

STEP 1

(AD サーバーへ接続する場合) [CD-ROM]¥AD_CLIENT にある setup.exe を実行します。

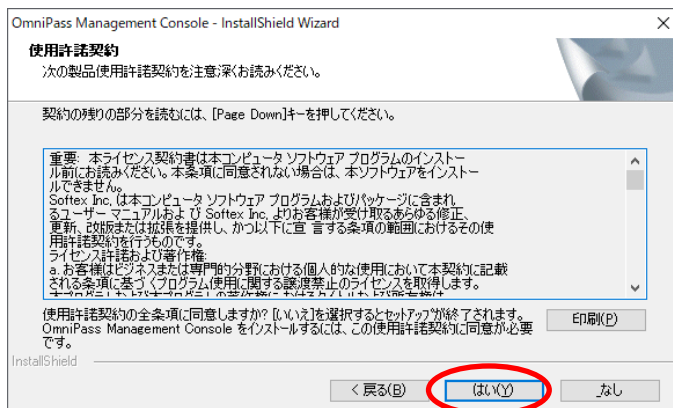
(ADAM/AD LDS サーバーへ接続する場合) [CD-ROM]¥ADAM_CLIENT にある setup.exe を実行します。

「セットアップへようこそ」の画面で「次へ」をクリックします。



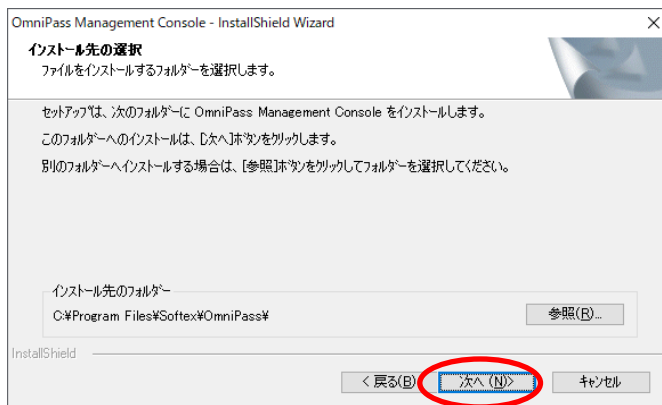
STEP 2

使用許諾書の内容をご確認いただき、同意であれば「はい」をクリックします。



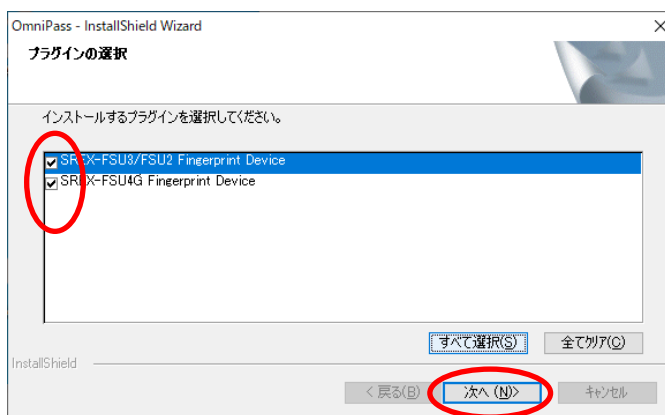
STEP 3

OmniPassEE クライアントのインストール先を選択し、「次へ」をクリックします。



STEP 4

プラグインの選択画面が表示されますので、使用するセンサーにチェックを入れ「次へ」をクリックします。



※ AD サーバーへ接続する場合、STEP5 は表示されません。STEP6 へ進んでください。

STEP 5

STEP 5-1

ADAM/AD LDS サーバーへ接続する場合
「はい」をクリックします。



STEP 5-2

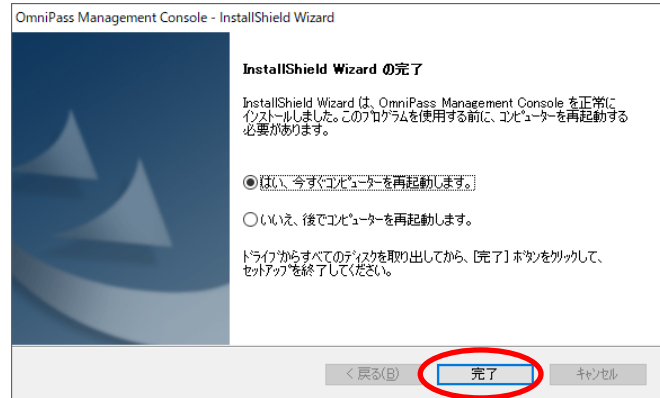
接続するサーバー名とポート番号
(デフォルト: 50000)を入力し「次へ」を
クリックします。



STEP 6

「はい、今すぐコンピュータを再起動します。」を選択し、「完了」をクリックします。

インストール後の再起動時には、サーバードメインのクライアントとしてPCにログオンしてください。



OmniPassEE クライアント PC のサーバーへの接続方法については、「3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続」をご参照ください。

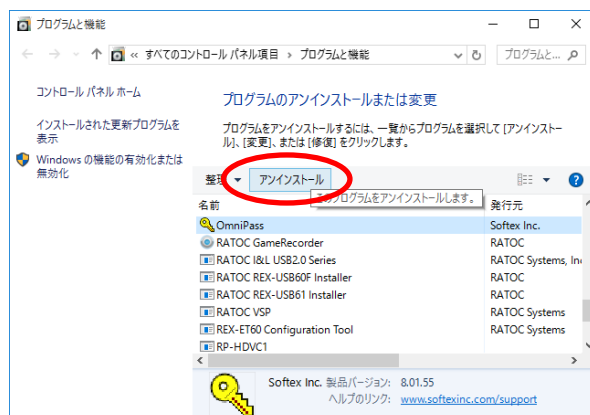
■OmniPassEE クライアントアプリケーションのアンインストール

STEP 1

「スタート」メニューから[コントロールパネル]-[プログラムと機能]を起動します。

「OmniPass」を選択し「アンインストール」をクリックします。

または、「スタート」メニューから[すべてのアプリ]-[Softex]-[OmniPass のアンインストール]を選択します。



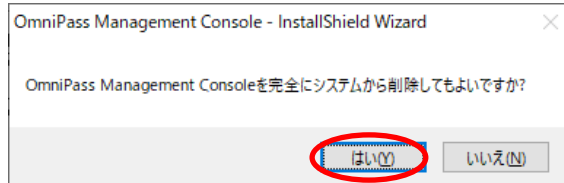
STEP 2

アンインストールに関する注意事項をご確認いただき「次へ」をクリックします。



STEP 3

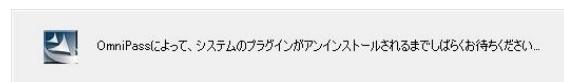
アンインストールする場合は「はい」をクリックします。



STEP 4

OmniPassEE クライアントのアンインストール実行画面が表示されます。

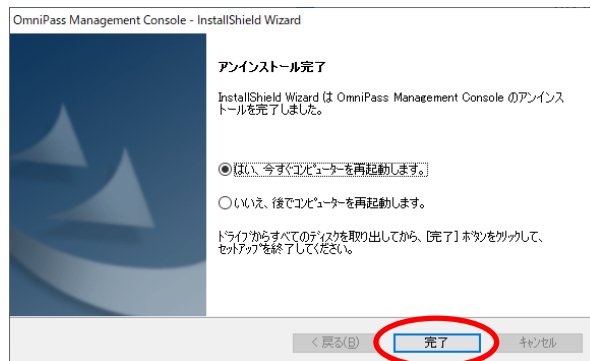
ここでは、何も操作する必要はありません。

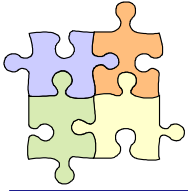


STEP 5

以上でアンインストールは完了です。

「はい、今すぐにコンピュータを再起動します。」を選択して「完了」をクリックします。





3-2. OmniPassEE クライアント PC の接続

■クライアント PC の登録

クライアント PC を OmniPassEE サーバーへ接続するには、OmniPass サーバーへクライアント PC を登録する必要があります。

クライアント PC を登録するには次の 2 通りの方法があります。

- ・ 「クライアント PC から登録」
- ・ 「サーバー側の管理コンソールから登録」

ここでは、クライアント PC から登録する方法を説明いたします。

サーバー側の管理コンソールから登録する場合は、サーバー管理者までお問い合わせください。
(OPEE 管理マニュアル：2-4-2. OmniPassEE 管理コンソールから登録)

OmniPass をインストールし、PC を再起動すると以下の画面が表示されます。

この時、管理者のユーザー名とパスワードの入力が必要となりますので、この画面が表示された場合は管理者までお問い合わせください。

クライアント PC を OmniPassEE サーバーに接続して使用するために、

「このコンピュータを OmniPass エンタープライズサーバと接続します。」

を選択します。

管理者のユーザー名とパスワードを入力し「OK」をクリックします。

! 「このコンピュータを OmniPass エンタープライズサーバに接続しません。」

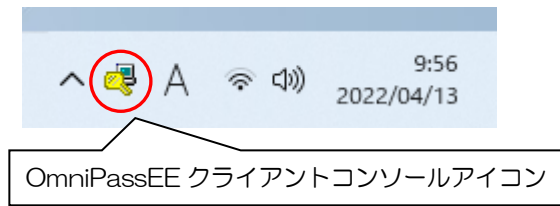
このコンピュータは、「スタンドアロン」クライアントモードで動作します。」

を選択すると、OmniPassEE クライアントは OmniPassEE サーバーに接続せず、この PC 上でスタンドアロンモードとして動作します。

スタンドアロンモードの場合、OmniPassEE に接続するためにはクライアント PC の OmniPass を再インストールする必要がありますのでご注意ください。

■OmniPass 用のアイコンについて

OmniPassEE クライアントがインストールされ、正常に OmniPassEE サーバーに接続されると、タスクトレイに「鍵とコンピュータのアイコン」が表示されます。



OmniPassEE サーバーと正常に接続されています。

接続



OmniPassEE サーバーと接続されていない状態です。

この状態で新規に登録された情報は、一時的に OmniPassEE クライアント PC のローカルディスクに保存されます。

切断



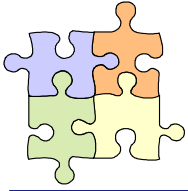
OmniPassEE サーバーに再接続中です。OmniPassEE サーバーのユーザー情報を更新しています。(アイコンの PC の画面が点灯します。)

再接続中



OmniPassEE サーバーと接続していません。OmniPassEE クライアントはスタンダロンモードで実行され、全てのユーザー情報は PC のローカルディスクに保存されます。

スタン
アロン



第3章 登録

3-3. OmniPassEE クライアントユーザーの登録

■クライアントユーザーの登録

クライアントユーザーの OmniPassEE サーバーへの登録には、次の 2 通りの方法があります。

- ・ 「OmniPassEE クライアント PC から登録」
- ・ 「サーバー側の管理コンソールから登録」

ここでは、OmniPassEE クライアント PC から登録する方法を説明いたします。

サーバー側の管理コンソールから登録する場合は、サーバー管理者までお問い合わせください。

(参照：OPEE 管理者マニュアル「2-5-2. OmniPassEE 管理コンソールから登録」)

OmniPass をインストールし、PC を再起動すると以下の登録画面が表示されます。

(OmniPassEE クライアント PC から登録する場合は、接続するサーバーで作成されたユーザー名・パスワードが必要になります。登録を行う前に、必ずシステム管理者に正しい ID・パスワードを確認して下さい。)

STEP 1

クライアントアプリケーションのインストール後、はじめて OmniPassEE クライアントユーザーが OmniPassEE クライアント PC にログオンすると、[OmniPass 登録ウィザード]が起動しますので、「開始」をクリックします。

初期設定では、ログオン時に毎回登録画面が表示されます。以降、登録画面を表示しない場合は「起動時にこの画面を表示」のチェックを外してください。



STEP 2

OmniPassEE クライアントユーザーのユーザー名、ドメイン名、パスワードを入力し「次へ」をクリックします。

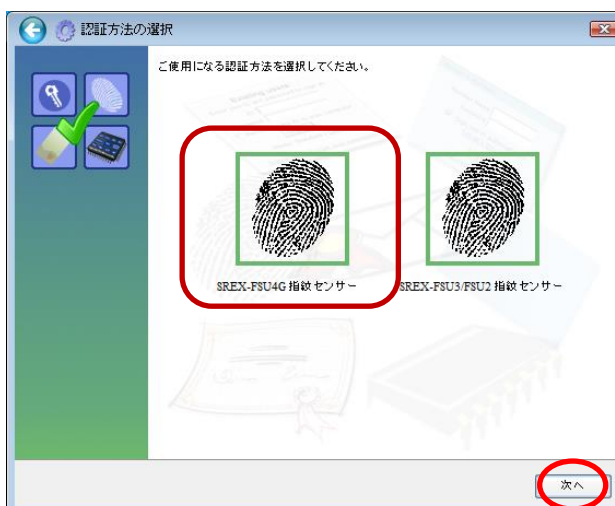


STEP 3

使用するデバイスを選択し「次へ」をクリックします。

※ インストール時に片方のセンサーのみを選択した場合はこの画面は表示されません。

(以降の登録内容は SREX-FSU4G センサーでの例となります。)



STEP 4

登録する指を選択し「次へ」をクリックします。

(指先を囲んでいる四角い点線をクリックすると、使用する指が選択できます。)

指の選択画面には「練習」ボタンがあり、クリックすると指紋のキャプチャを練習できます。問題なくキャプチャされるようでしたら、指紋の取得に進みます。

! 指の乾燥状態、傷などにより、指紋が正しく認識されない場合があります。



STEP 5

指紋の読み取りを開始します。画面の表示に従って指紋の読み取りを行います。

指紋の読み取りは約 12 回行う必要があります。

読み取りが正常に行われた場合は、指紋画像とセンサーLED が緑色で表示され、失敗した場合は、指紋画像とセンサーLED が赤色で表示されます。


! センサーにタッチする毎(指紋読取毎)にセンサーLED が青点滅であることを確認してからタッチしてください。



STEP 6

読み取った指紋との確認のため、同じ指で指紋認証を行います。「選択した指が OmniPass に登録されました。」と表示されましたら、「次へ」をクリックします。

登録に失敗した場合は、画面左上の「←(戻る)」をクリックし、再登録を行います。

 登録指紋確認のための画面が表示されるまで数秒時間が掛かりますので、センサーLED が青点滅であることを確認してから指紋認証を行なってください。

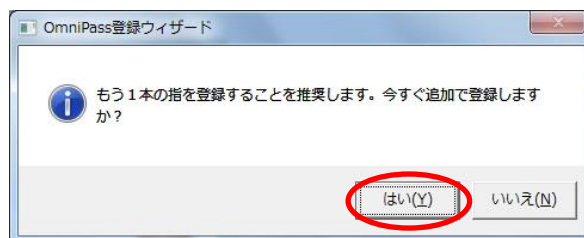


STEP 7

「もう 1 本の指を登録することを推奨します。今すぐ追加で登録しますか?」の画面が表示されます。

さらに別の指の指紋登録をする場合は「はい」をクリックします。

STEP 4 の操作に戻り、異なる指で登録操作を繰り返します。

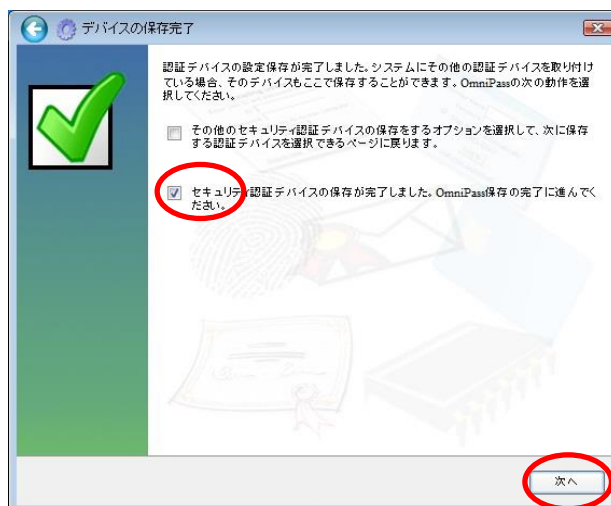


STEP 8

指紋の登録が完了した場合は「セキュリティ認証デバイスの保存が完了しました。OmniPass 保存の完了に進んでください。」にチェックを入れ「次へ」をクリックします。

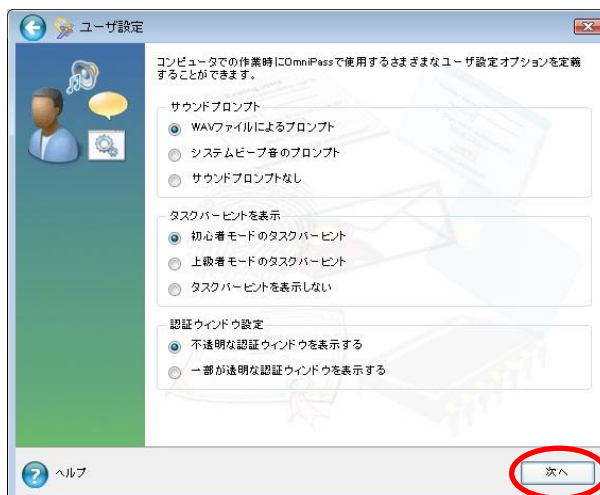
「その他のセキュリティ認証デバイスの保存をするオプションを選択して、次に保存する認証デバイスを選択できるページに戻ります。」にチェックを入れ「次へ」をクリックした場合は、


STEP3 からの登録作業となり、指の追加登録および他の認証デバイスでの登録を行うことができます。



STEP 9

サウンド、タスクバー、認証ウィンドウの設定を行います。設定内容を確認し「次へ」をクリックします。



 各種の OmniPassEE イベントをユーザーに通知する方法を選択できます。

OmniPassEE クライアントの操作方法に慣れるまで、**[サウンドプロンプト]**を「WAV ファイルによるプロンプト」または「システムビープ音のプロンプト」に、**[タスクバーヒントを表示]**を「初心者モードタスクバーのヒント」に設定することをおすすめします。

[サウンドプロンプト]

「WAV ファイルによるプロンプト」： WAV ファイル音声による警告音を鳴らします。

「システムビープ音のプロンプト」： システムビープ音による警告音を鳴らします。

「サウンドプロンプトなし」： 警告音を OFF にします。

[タスクバーヒントを表示]

「初心者モードのタスクバーヒント」： 詳細な説明を表示します。

「上級者モードのタスクバーヒント」： 簡潔な説明を表示します。

「タスクバーヒントを表示しない」： タスクバーヒントを表示しません。

[認証ウィンドウ設定]

「不透明な認証ウィンドウを表示する」： 認証時に表示されるウィンドウが不透明ではありません。

「一部が透明な認証ウィンドウを表示する」： 認証時に表示されるウィンドウが不透明です。

STEP 10

以上で OmniPassEE クライアントユーザーの登録は完了です。

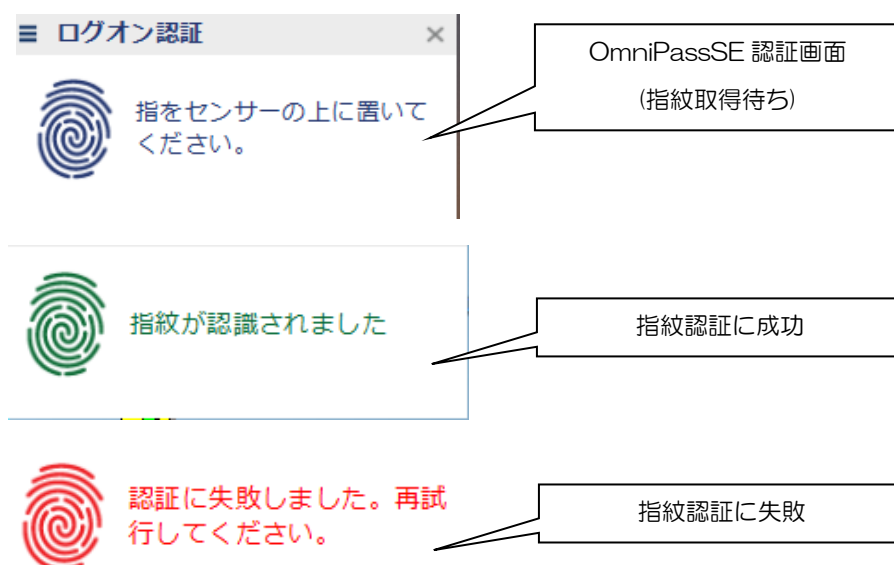
「完了」をクリックします。



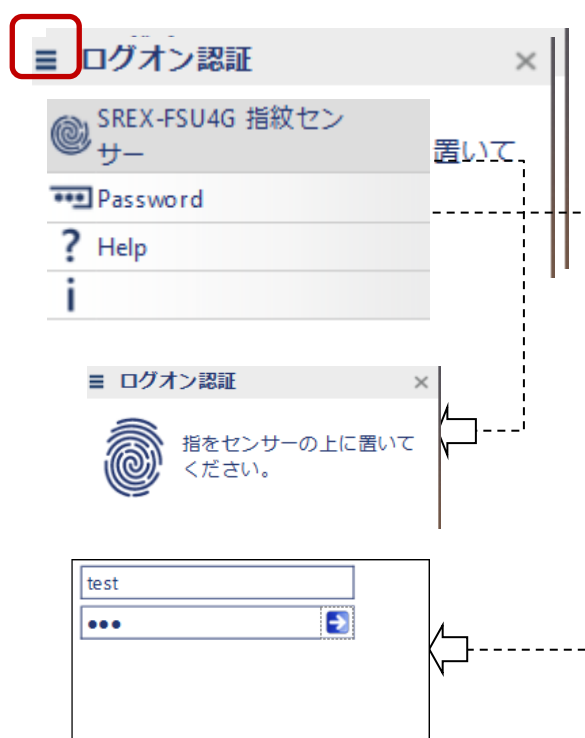
■OmniPass 認証ダイアログ

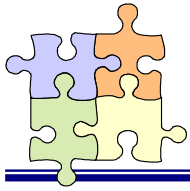
Windows を再起動すると、従来の Windows のログオンでは表示されなかった OmniPass 認証ダイアログが表示されます。これは、OmniPass 認証システムが呼び出されると常に表示されます。OmniPass 認証システムは、以下の場合に呼び出されます。

- (1) Windows のログオン時
- (2) OmniPass のログオン時
- (3) ワークステーションのロック解除時
- (4) スリープ/スタンバイまたは休止状態からの復帰時 (OmniPass とは別に設定が必要です)
- (5) パスワード対応のスクリーンセーバーのロック解除時
- (6) パスワード等を OmniPass に記憶したサイトを開いた時
- (7) ファイルまたはフォルダーの暗号化・復号化実行時



OmniPassSE 認証画面の左上にあるプルダウンボタンをクリックすると、指紋センサーとパスワード認証の選択バーが表示されます。右図で各認証方法をクリックすると、選択した認証画面が表示されます。





4-1. アカウント情報の記憶

OmniPass アカウント情報の記憶を行うことにより、アカウント入力（ユーザーID、パスワード）が必要な Web サイトに指紋認証により自動的にログオンすることができます。何種類ものパスワードを覚えておく必要はありません。



OmniPassSE8.50.xx が対応しているブラウザは Microsoft Edge, Google Chrome, Mozilla Firefox です。

全てのバージョン、ページでの動作を保証しているわけではありません。

■ Web ログオンパスワードの記憶

- 1 アカウント入力を要求する Web サイトが開かれると、OmniPass はアカウント入力が要求されたことを自動検出し、「パスワードを検出しました」というメッセージを表示します。

メール:
パスワード:
ログイン



- 2 アカウント情報（右の Web サイトでは、ユーザーのメールアドレスとパスワード）を入力した状態にします。

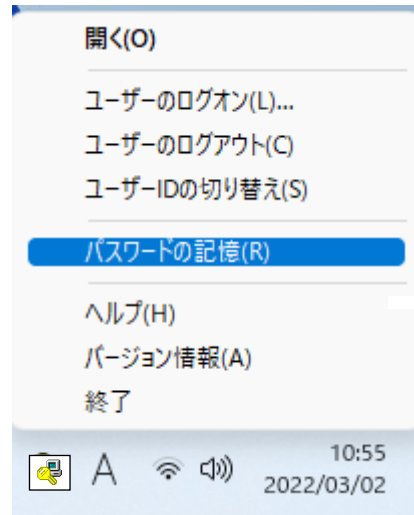


アカウント情報（ユーザーID、メールアドレス、パスワード等）にかな漢字コードを使用できない場合があります。

メール: *****
パスワード: *****
ログイン

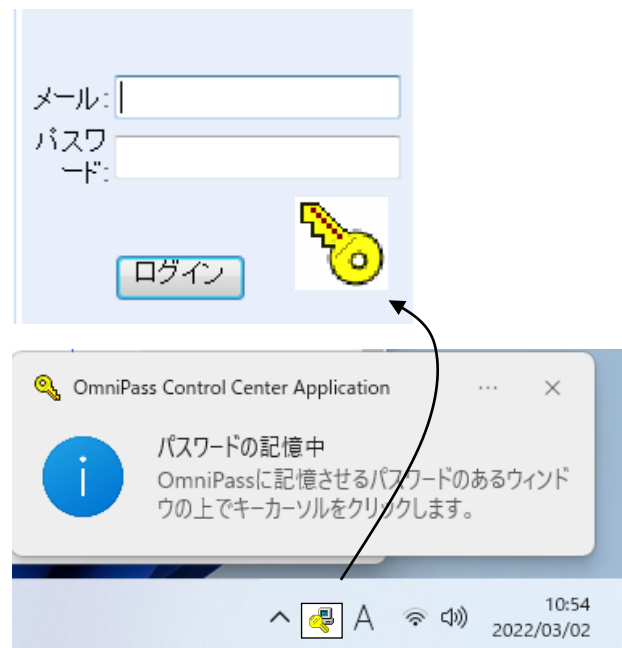
3

タスクバーの OmniPass コントロールセンタを右クリックし、右クリックメニューより「パスワードの記憶(R)」を選択します。

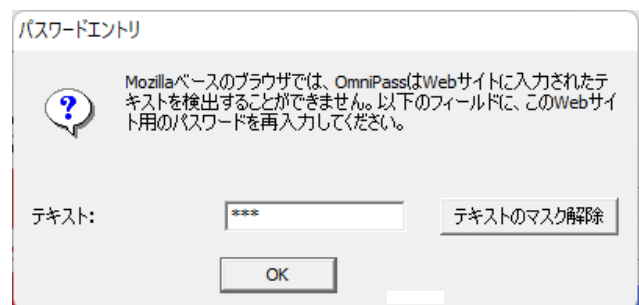


4

「パスワードの記憶中」が表示された状態で、OmniPass キー（右図の鍵マーク）をログインプロンプト（アカウント入力ダイアログ）の近くにドラッグします。



右画面が表示される場合は、テキスト欄に記憶させる文字列を入力し「OK」をクリックします。

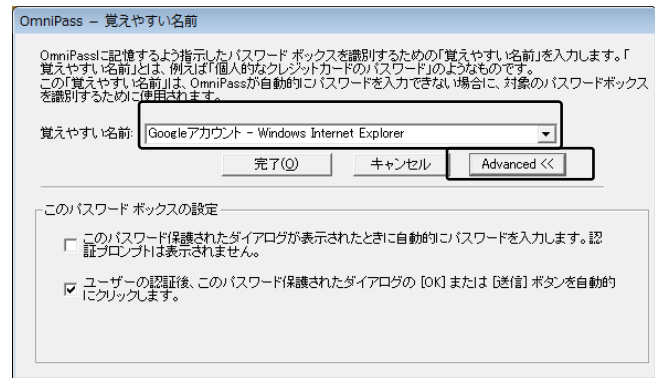


5

OmniPass がアカウント情報を記憶すると、「覚えやすい名前」のダイアログが表示されます。「覚えやすい名前」を編集入力し、「完了(O)」ボタンをクリックします。

OmniPass に記憶させたアカウント情報は「パスワードの管理」に保管されています。

「Advanced」をクリックするとパスワードの入力方法を設定することができます。



すでに OmniPass に記憶させた Web サイトに対して「パスワードの記憶」を再実行すると、OmniPass は現在記憶している Web サイトのアカウント情報（ユーザーID やパスワード）を上書き更新します。

例えば、アカウントページのパスワードを XXXXXX で、すでに OmniPass に記憶させていたとします。ところが、ある日、新しいパスワード：YYYYYY への更新案内が送られてきて、今後は新しいパスワード：YYYYYY でログオンしなければいけなくなったと仮定します。その場合、アカウントページにアクセスして、OmniPass にログオンさせる代わりに新しいパスワード：YYYYYY を入力します。その後「ログオン」をクリックしないで、パスワードの記憶を使用してカーソルを OmniPass キーに変え、ログオンプロンプトの近傍をクリックします。OmniPass は確認を要求し、続いてアカウント情報を上書きします。上記の操作により、OmniPass に記憶させたユーザーID は同じですが、パスワードは XXXXXX から YYYYYY へ更新されます。

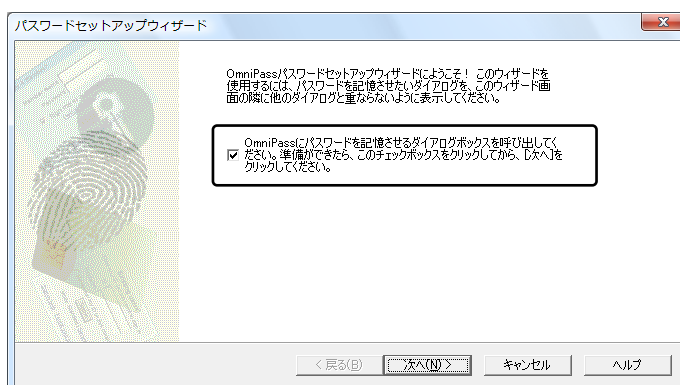
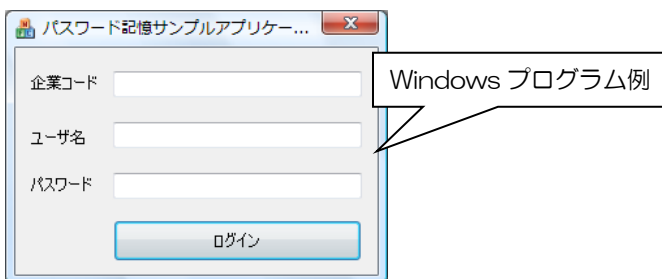
■アプリケーションログオンパスワードの記憶

OmniPass はアカウント入力が必要とするホームページ以外に、「パスワードセットアップウィザード」の機能を使って、アカウント入力が必要とする Windows プログラムのアカウント情報も記憶することができます。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「アカウントの管理」を選択します。「アカウント設定」メニューより、「パスワードウィザード」を選択します。



- 2 Windows プログラムのアカウント情報入力画面を「パスワードセットアップウィザード」の近くに表示させます。作業が終了したら、「OmniPass にパスワードを記憶させるダイアログボックスを呼び出してください。・・・」をチェックし、「次へ(N)」をクリックします。

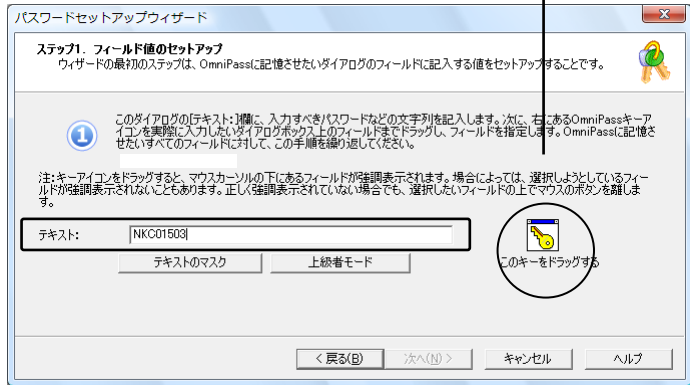
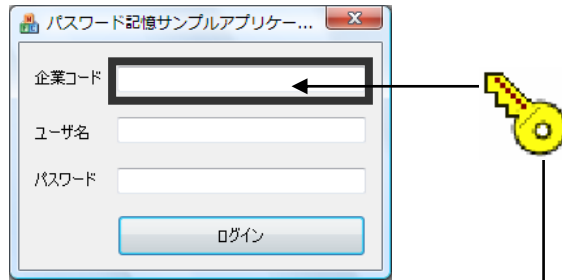


3

パスワードセットアップウィザードの「テキスト」欄に適切なアカウントデータを入力し、「このキーをドラッグ」をドラッグし、Windows プログラムの該当入力欄の上へドロップします。右 Windows プログラムの例では、最初に企業コードのフィールド設定を行っています。



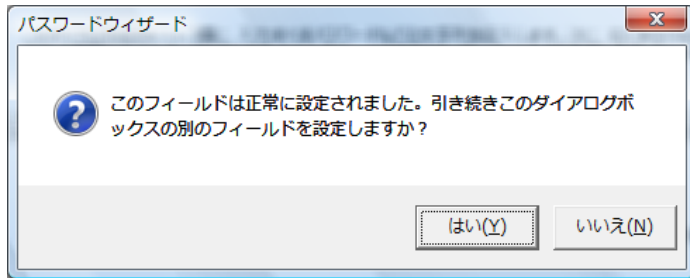
Windows プログラムの入力欄へ直接入力しないでください。



4

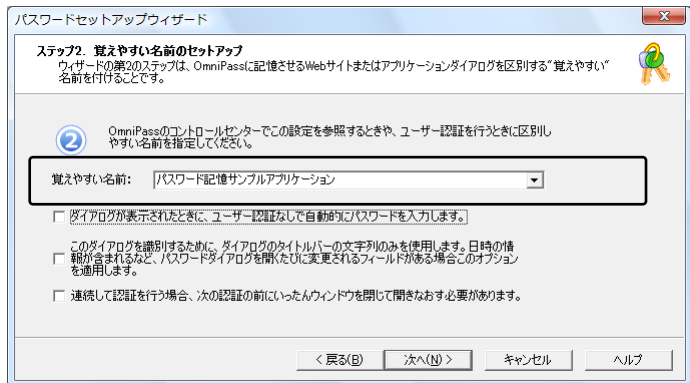
一つのフィールドの設定が終了すると右確認メッセージが表示されます。引き続きフィールド入力を行う場合は「はい (Y)」をクリックします。右の例では、企業コードの次に「ユーザ名」と「パスワード」の設定が必要です。

全ての入力が完了したら、「いいえ (N)」をクリックします。



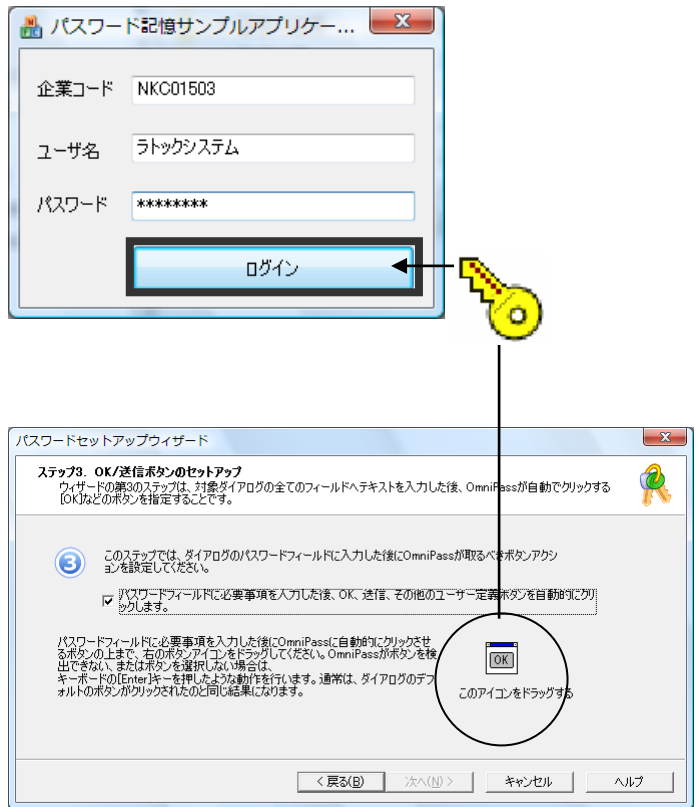
5

Windows プログラムの名前を「覚えやすい名前」に入力し、「次へ(N)」をクリックします。



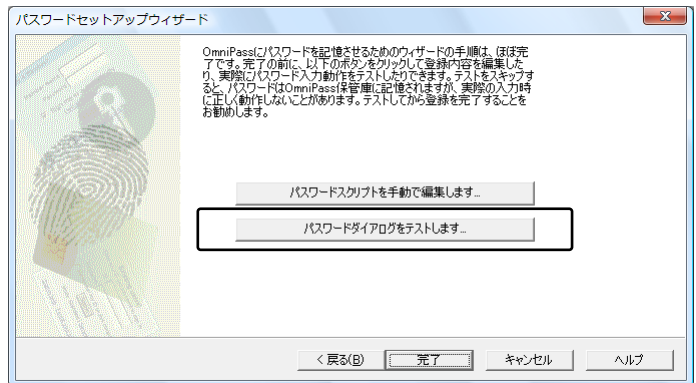
6

Windows プログラムで最後に操作するボタンを指定します。「このアイコンをドラッグ」をドラッグし、操作するボタンの上へドロップします。OmniPass への記憶操作は以上で終了です。「次へ(N)」をクリックします。



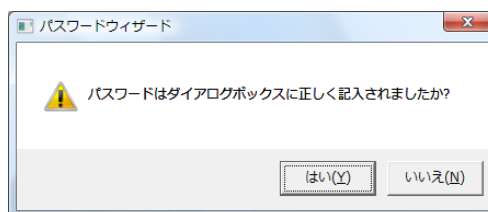
7

「パスワードダイアログをテストします」をクリックします。

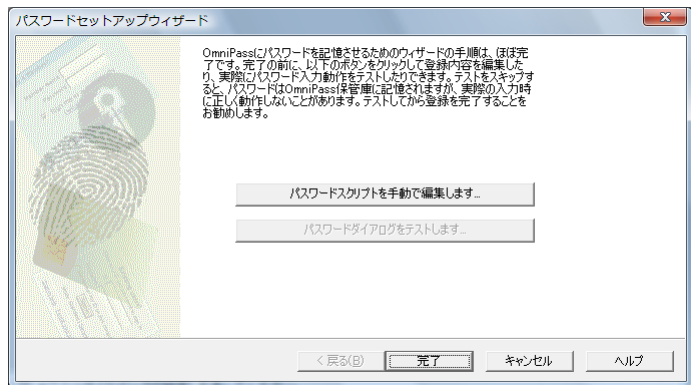


8

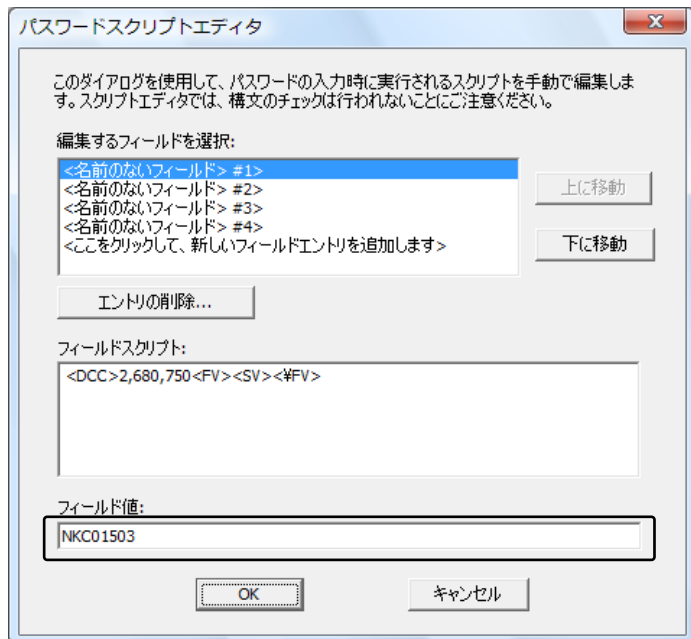
テスト結果に問題がなければ、「はい(Y)」をクリックします。



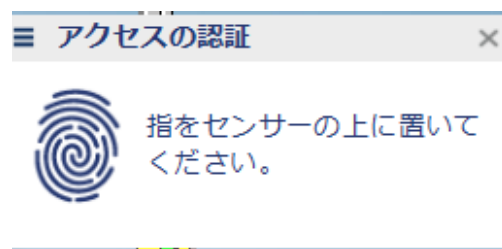
9 最後に「完了」をクリックします。



10 手順7で「パスワードスクリプトを手動で編集します」をクリックすると、右スクリプト編集画面が表示されます。編集が必要な場合は、ここで編集することができます。

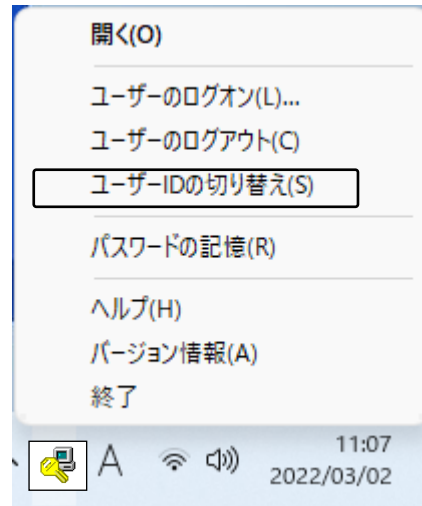


次回より、Windows プログラムのアカウント入力が表示されると、OmniPass 指紋認証ダイアログが表示されます。アカウント情報を入力する代わりに、OmniPass の指紋認証だけでログオンすることができます。



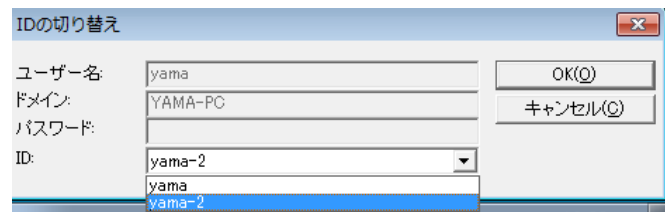
3

同一の Web サイトで複数のアカウント情報を記憶させる場合は、「ログオンパスワードの記憶」を行う前に「ユーザーIDの切り替え」を行い、ユーザーIDごとに一つのアカウントを記憶させます。ユーザーIDの変更は、タスクバーの「OmniPass コントロールセンタ」を右クリックし、「ユーザーIDの切り替え」を選択します。



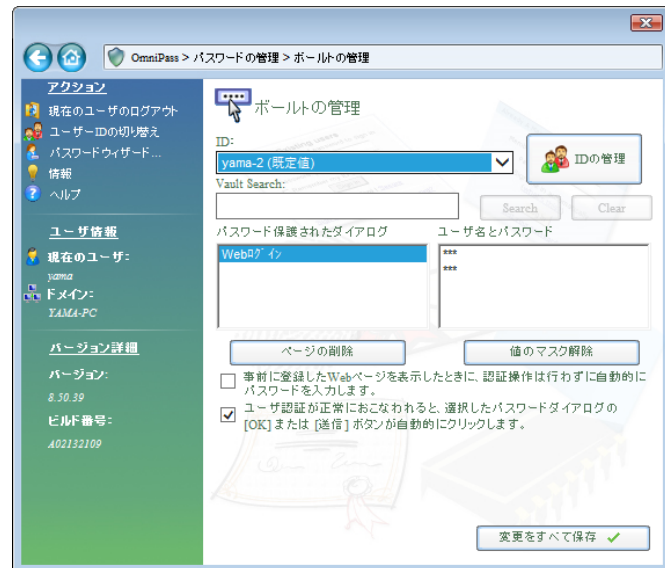
4

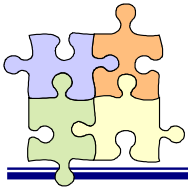
「IDの切り替え」ダイアログより、変更したいIDを選択します。ID変更後、ログオンパスワードの記憶を実行します。



5

各ユーザーIDの「パスワード管理」は、OmniPass コントロールセンタの「アカウントの管理」のページの「パスワード管理」より行うことができます。右の「ID」を選択することにより、IDごとに記憶されたパスワード情報等が表示されます。





4-2. 暗号化と復号化

OmniPass はフォルダー単位・ファイル単位での暗号化と復号化を行うことができます。
また、OmniPass 暗号化ファイルは複数の OmniPass 登録ユーザーと共有することができます。

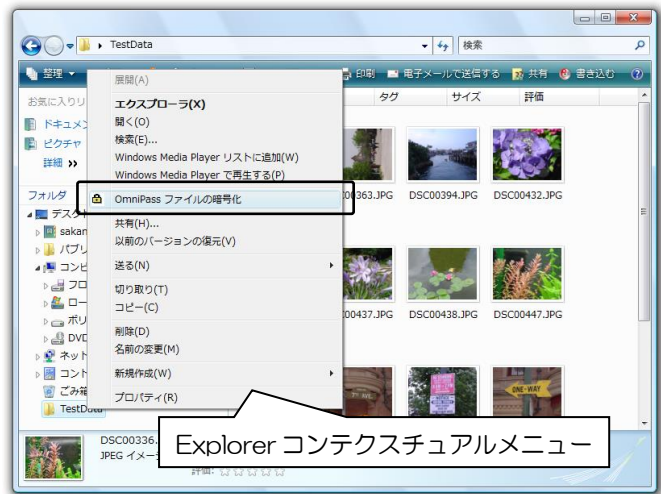
■暗号化

1 暗号化するファイルやフォルダー上でマウスを右クリックし、表示される「OmniPass ファイルの暗号化」メニューを選択すると暗号化の操作を行うことができます。

(Windows11 では[その他のオプションを表示]から表示)

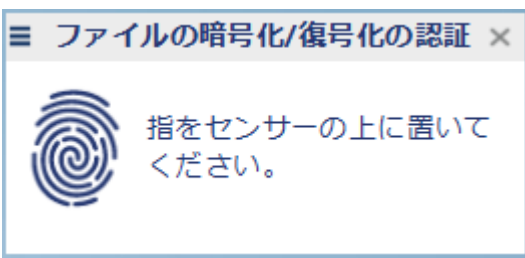


“C:¥Windows” に格納された Windows のシステムファイル、“C:¥Program Files” にインストールされたプログラム、OmniPass がインストールされているフォルダーは、暗号化することができません。

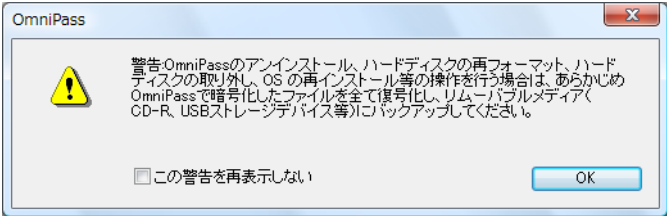


Explorer コンテキストメニュー

2 暗号化のための認証を行います。

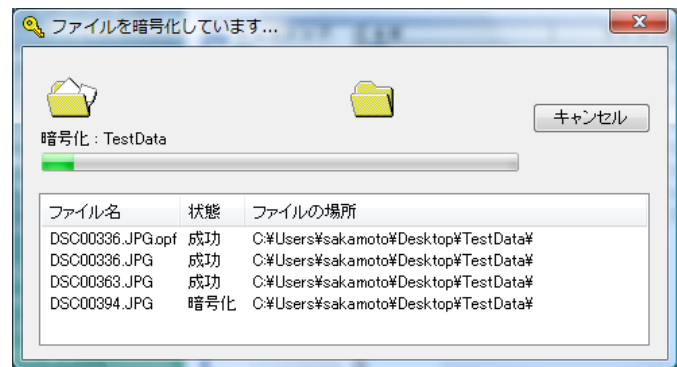


3 暗号化を行うための認証が完了すると警告メッセージが表示されます。内容を確認して「OK」をクリックします。



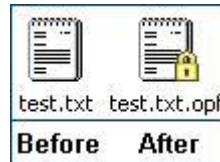
4

暗号化が行われます。



5

暗号化を行ったフォルダーもしくはファイルは鍵の付いた新しいアイコンで表示されます。ファイルの拡張子は「.opf」、フォルダーの拡張子は「.opef」に変換されます。



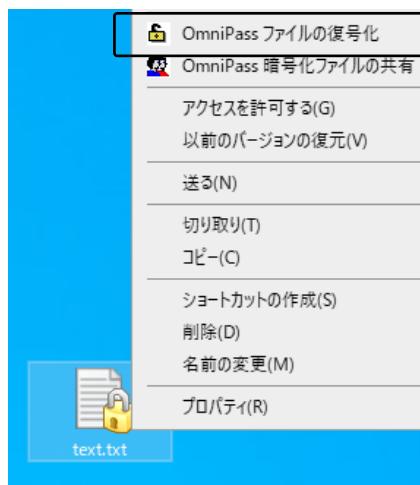
■復号化

1

復号化するファイルやフォルダー上でマウスを右クリックし、表示される

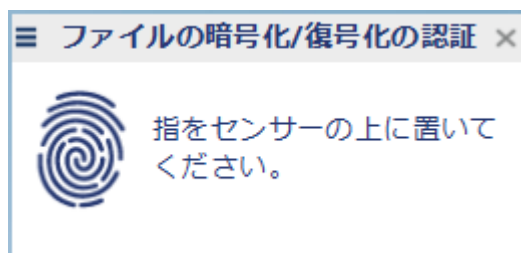
「OmniPass ファイルの復号化」メニューを選択すると復号化の操作を行うことができます。

(Windows11 では[その他のオプションを表示]から表示)



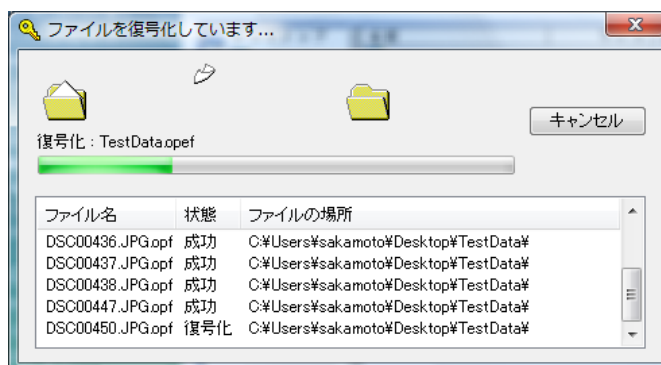
2

復号化のための認証を行います。



3

認証に成功すると自動的に復号化が行われます。



復号化を行う方法として、Explorerに表示された暗号化ファイル・暗号化フォルダーをマウスから直接ダブルクリックする方法があります。

フォルダーをダブルクリックすると暗号化フォルダーは一旦復号化されますが、フォルダー内の暗号化ファイルを編集し、フォルダを閉じると暗号化された状態になります。

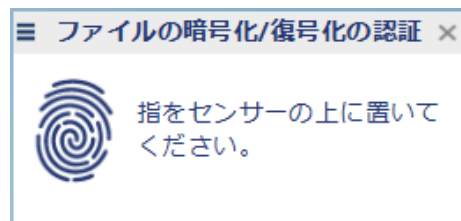
暗号化ファイルの場合、ダブルクリックで開くと復号化されます。

■暗号化ファイルの共有

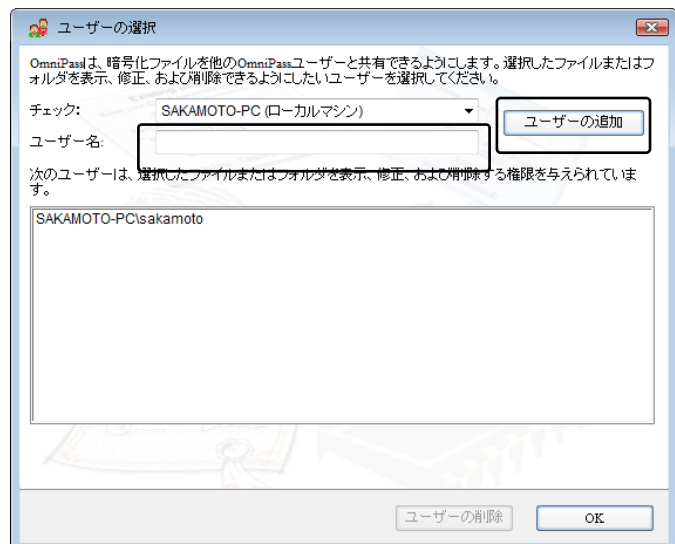
- 1 Windows Explorer からマウスの右クリックでメニューを表示し、「OmniPass 暗号化ファイルの共有」を選択します。



- 2 暗号化ファイル共有のための認証を行います。

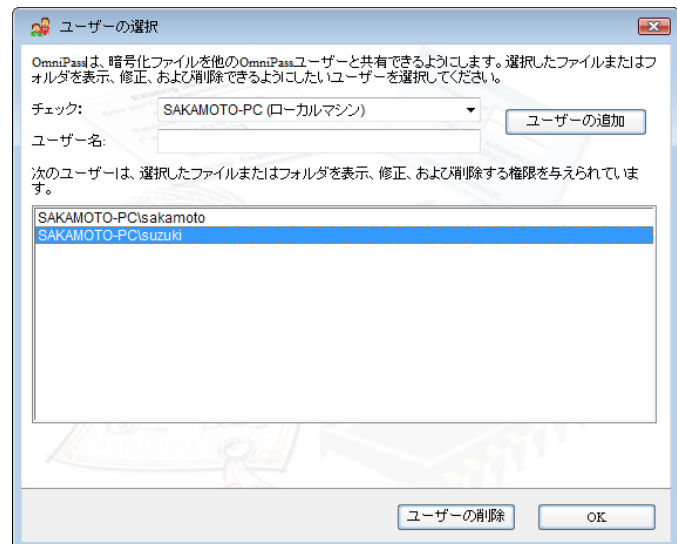


- 3 暗号化ファイルの共有を行いたい OmniPass に登録されたユーザー名を入力し、「ユーザーの追加」のボタンをクリックします。



4

下部の一覧に共有化を許可するユーザーが追加されます。



OmniPass 暗号化ファイルやフォルダーを共有すると、共有するユーザーとの間で共有されたリソースを効果的に制御することができます。一旦共有の許可を行うと、許可されたユーザーはすべてのファイルのコピー・編集を行うことができ、更には OmniPass ユーザーのリストから全てのユーザーを排除することができます。許可を与えたユーザーが暗号化されたリソースの制御をできないようにすることも可能となりますので、注意してください。



ファイルの共有を許可されたユーザーが復号化の操作を行う場合は、ユーザーは OmniPass にログオンする必要があります。OmniPass にログオンしていない状態で、ファイルの復号化を行うことはできません。

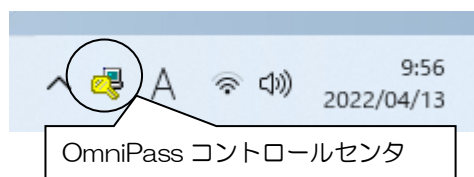
5-1. ユーザーの追加と削除

OmniPassEE クライアント PC から OmniPassEE クライアントユーザーの追加と削除を行うことができます。

OmniPassEE クライアントユーザーとして追加するには、サーバー側の Active Directory で作成されたクライアントユーザー名とパスワードが必要となります。

■ユーザーの追加

1 タスクバーに格納された鍵マーク (OmniPass コントロールセンタ) をダブルクリックします。



2 「ユーザー管理ウィザードの実行」を選択します。



3 次に「新規ユーザーを OmniPass に追加」を選択します。

以降の操作は、「3-3. OmniPassEE クライアントユーザーの登録」で説明されている手順2からと同様にユーザー登録を行います。



■ユーザーの削除



ユーザーを削除すると、そのユーザーに関連付けられた OmniPass データは自動的に破棄されます。また、そのユーザーが暗号化したファイルは復号化できなくなります。削除を行う前に、以下の操作を行うことを推奨します。

- (1) OmniPass ユーザープロファイルのバックアップを行う。
- (2) 全ての OmniPass 暗号化ファイル・フォルダーを復号化する。
- (3) 記憶させた Web およびアプリのアカウント・パスワード情報のメモを取っておく。

1

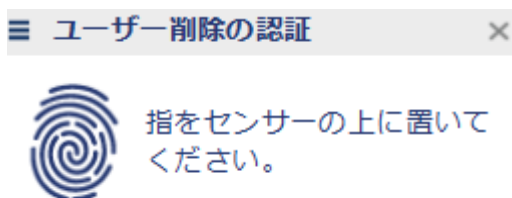
OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。

右画面より「OmniPass からユーザを削除」をクリックします。



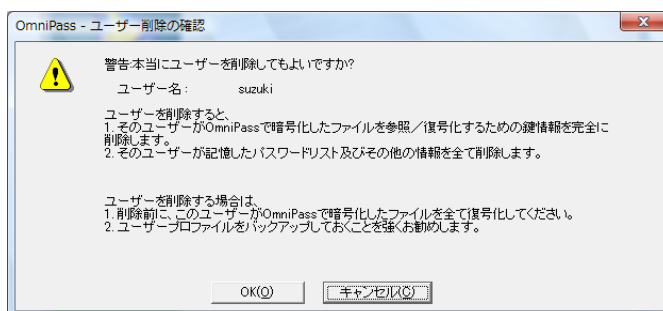
2

削除を行うユーザーの指紋認証を行います。

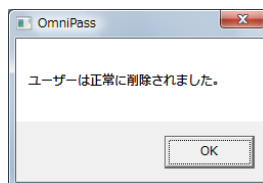


3

削除されるユーザー名と警告の内容を確認して、事前に適切な処置を行った後、問題がなければ「OK(O)」をクリックします。



削除完了確認画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックします。



第5章 管理と設定

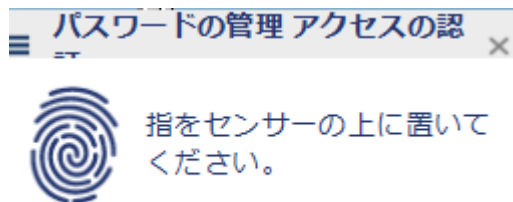
5-2. アカウント情報の管理

「ログオンパスワードの記憶」で OmniPass に記憶させたパスワード情報をパスワードの管理で参照することができます。万が一、パスワードを忘れた場合にも確認できます。

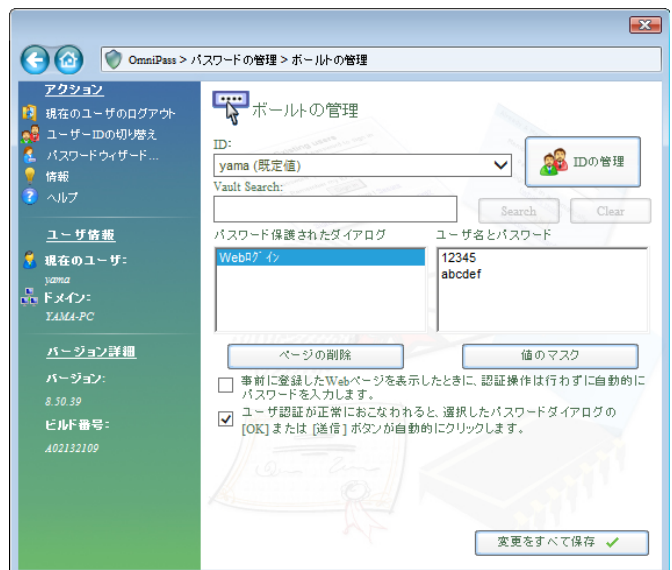
- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「パスワードの管理」を選択します。



- 2 「パスワードの管理」を開くためには、右の認証作業を行います。



- 3 「パスワード保護されたダイアログ」に OmniPass が記憶した Web サイトおよび Windows プログラムの名前が表示されます。「ユーザ名とパスワード」に各サイトのアカウント情報が表示されます。「値のマスク解除」をクリックしてパスワードの内容を確認できます。また、「ページの削除」をクリックして、記憶した情報を削除することができます。

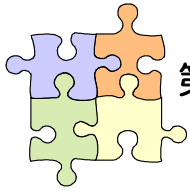


OmniPass による記憶されたサイトの処理方法には、下記の 3 つの設定があります。

- (1) 「事前に登録した Web ページを表示したときに、認証操作は行わずに自動的にパスワードを入力します。」
- (2) 「ユーザー認証が正常におこなわれると、選択したパスワードダイアログの「OK」または「送信」 ボタンを自動的にクリックします。」
- (3) 上記のいずれにもチェックを入れない設定。

4-1. アカウント情報の記憶の手順 4 で設定した内容が表示されます。

- (1) の設定は、あまり安全ではありません。(1) の設定を有効にすると、このサイトに移動するたびに、OmniPass は認証を要求せずにサイトに自動的にログインします。
 - (2) の設定にすると、OmniPass に記憶されたサイトを開くたびに、ユーザー認証が要求されます。認証に成功すると、このサイトに自動的にログインします。
 - (3) の設定にすると、OmniPass に記憶されたサイトを開くたびに、ユーザー認証を要求します。認証に成功すると、サイトの入力位置へアカウント情報 (ユーザーID やパスワード) は自動的に記入されますが、サイトにログインするためには、Web サイトの OK、送信、またはログインボタンをクリックする必要があります。
-



ユーザープロフィールのバックアップにより、OmniPass に記憶させたサイトのアカウント情報、登録した指紋データをバックアップすることができます。OmniPass のアンインストールを行う前に、必ずユーザープロフィールのバックアップを行ってください。

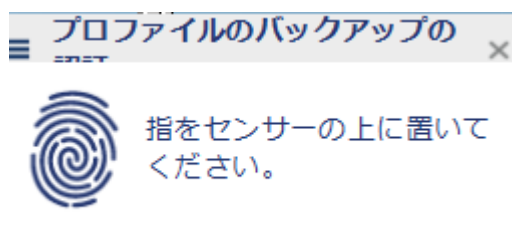
職場のパソコンで暗号化したファイルを自宅のパソコンに持ち帰って復号化したいというような場合、暗号化を行ったパソコンでバックアップしたユーザープロフィールを復号化したいパソコンに復元します。

■ユーザープロフィールのバックアップ

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。
右画面より「ユーザの OmniPass プロファイルのバックアップ」をクリックします。

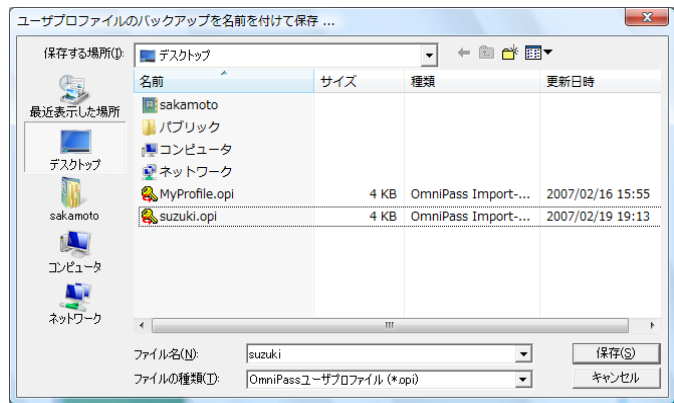


- 2 バックアップのための認証を行います。



3

バックアップファイルの保存先とファイル名を設定し、「保存(S)」をクリックします。



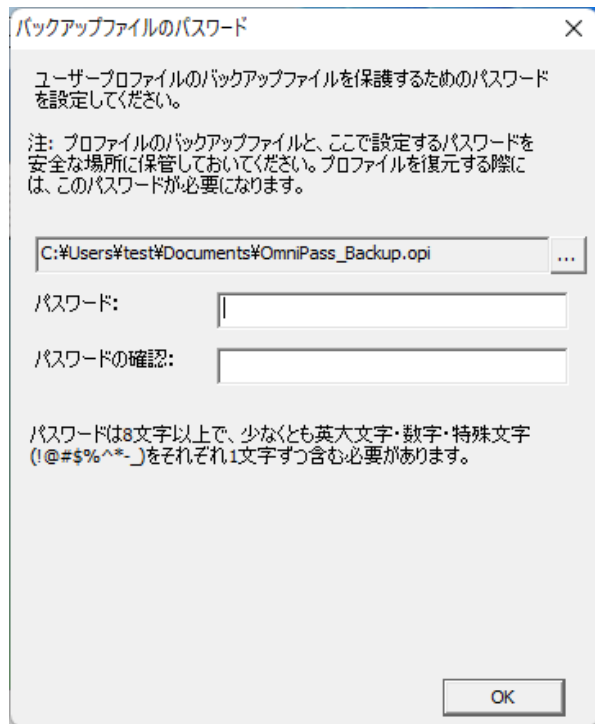
4

バックアップファイルのパスワードを入力し、「OK」をクリックします。



このパスワードは復元の際に使用しますので、必ず他の場所に記録しておくようにします。

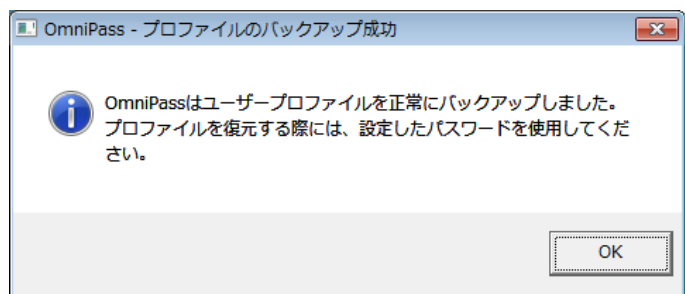
パスワードは8文字以上で、英大文字・数字・特殊文字(!@#\$%^*_ -)をそれぞれ1文字以上含めて指定してください。



5

「プロファイルのバックアップ成功」のメッセージが表示されます。「OK」をクリックします。

保存した場所に「xxx.opi」ファイルが作成されます。



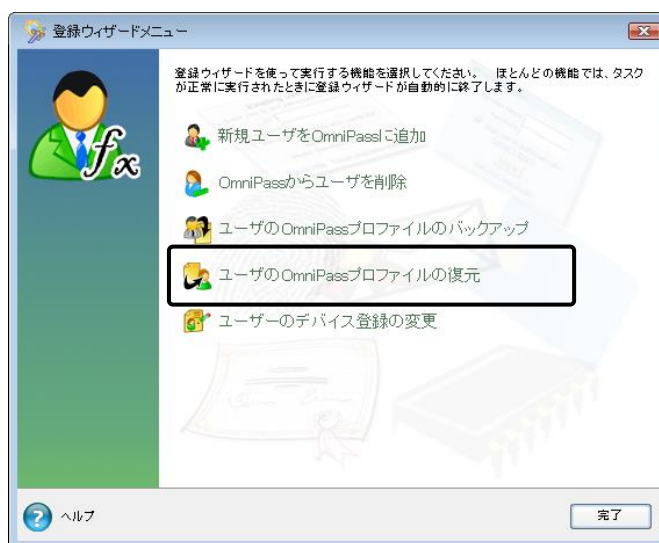
■ユーザープロファイルの復元

1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。

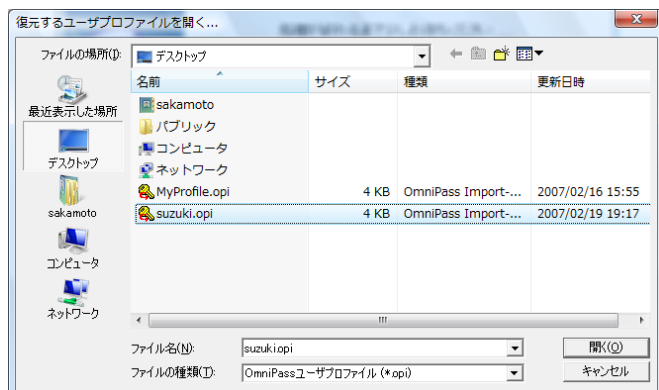
右画面より「ユーザの OmniPass プロファイルの復元」をクリックします。



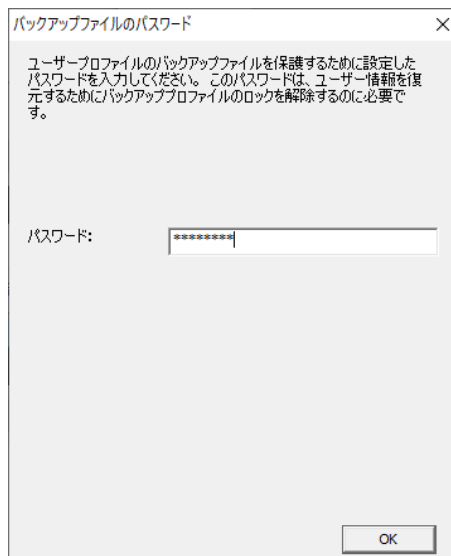
同じ名前のユーザーが既に登録されている場合、プロフィールを復元することはできません。



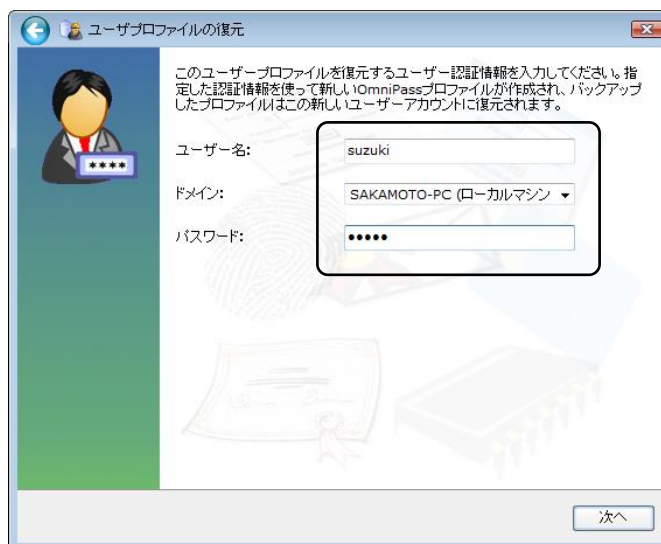
2 復元したいユーザープロファイルが保存されている場所とファイル名を指定し、「開く(O)」をクリックします。



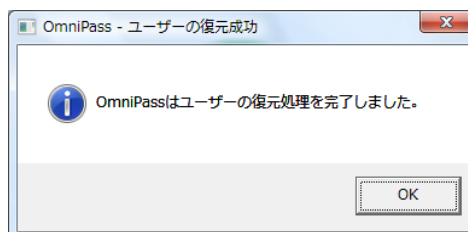
3 ユーザープロファイルのバックアップを行ったときに設定したパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

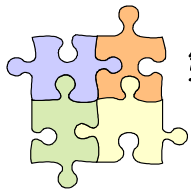


- 4 ユーザープロファイルのバックアップを行った時に使用していた「ユーザー名」・「ドメイン名」・「パスワード」を入力して「次へ」をクリックします。



- 5 「ユーザーの復元成功」メッセージが表示されます。「OK」をクリックします。





第5章 管理と設定

5-4. OmniPass コントロールセンタその他の設定

OmniPass のその他の設定機能について説明します。

5-4-1. ユーザのデバイス登録の変更

「認証デバイスの登録」は、すでに登録されたユーザーに対し、指紋データの追加登録を行う場合に使用します。

また、認証デバイスの追加もこの項目から行います。

- 1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「登録ウィザードの実行」を選択します。右画面より「ユーザのデバイス登録の変更」をクリックします。



- 2 登録に使用するセンサーを選択して、「次へ」をクリックします。以後の操作は、「3-3. OmniPassEE クライアントユーザの登録」の手順 3 からと同様になります。



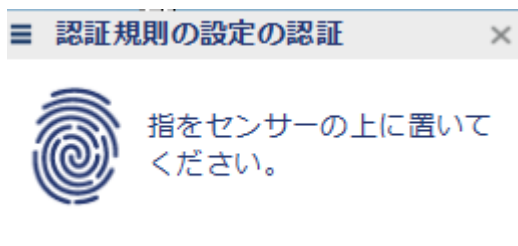
5-4-2. 認証デバイスの必須設定

1 OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「ユーザ認証規則とポリシーの設定」をクリックします。



2 認証規則の設定のための認証を行います。

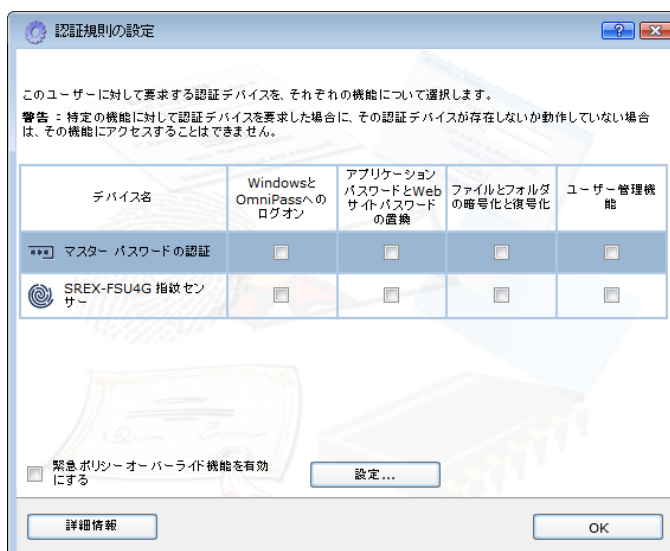


3 認証デバイスの必須設定では、
①Windows と OmniPass へのログオン

②アプリケーションパスワードと Web サイトパスワードの置換

③ファイルとフォルダの暗号化と復号化

④ユーザー管理機能
を行う際に、それぞれの認証方式(指紋認証/パスワード認証)を必須とするか否かの設定を行うことができます。

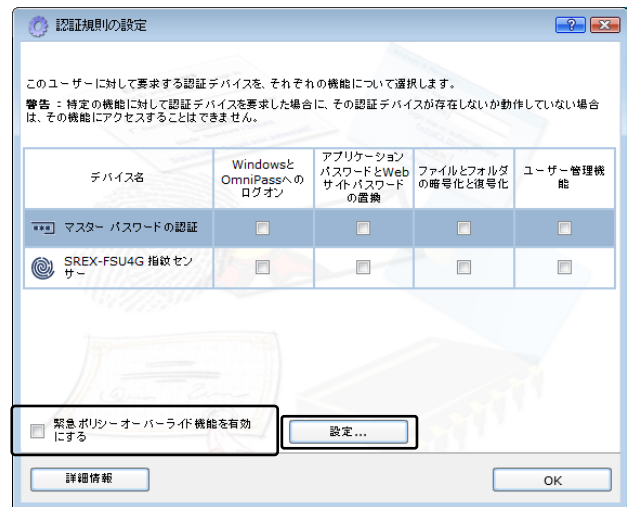


5-4-3. 緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする

「緊急ポリシーオーバーライド機能を有効にする」にチェックを入れると、認証が必要な操作で認証できない場合に、設定した回答を入力することで認証作業を回避することができます。

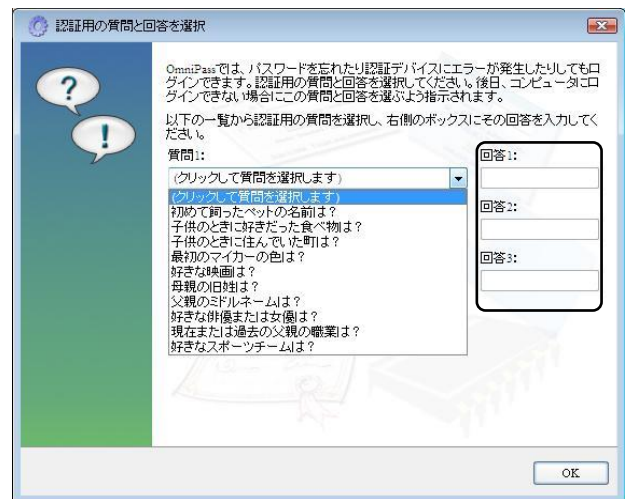
設定方法は以下の通りとなります。

「認証規則の設定」ダイアログで「設定」ボタンをクリックします。





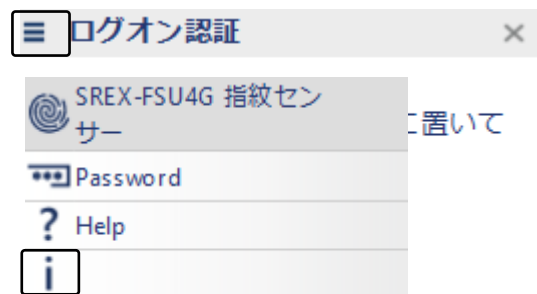
「認証用の質問と回答を選択」ダイアログが出力されますので、質問 1~3 を選択し、回答 1~3 に回答を入力します。

「OK」ボタンをクリックします。



使用方法は以下の通りとなります。

認証画面左上の  をクリックしてメニューを表示させ、  をクリックします。



「緊急ポリシーオーバーライド」ダイアログが表示されますので、ユーザー名とドメイン名を入力し「OK」をクリックします。



設定した回答 1~3 を入力し「OK」ボタンをクリックします。

The screenshot shows a dialog box titled "認証用の質問と回答を選択" (Select questions and answers for authentication). The text inside reads: "OmniPassでは、パスワードを忘れたり認証デバイスにエラーが発生したりしてもログインできます。以前に設定した認証用の質問の回答を入力してください。" (In OmniPass, you can log in even if you forget your password or an error occurs with the authentication device. Please enter the answers to the authentication questions you set up previously.) Below this, it says: "質問の右側にあるボックスに以下の質問の回答を入力してください。" (Please enter the answers to the following questions in the boxes on the right side of the questions.)

The dialog contains three questions and three corresponding answer boxes:

質問:	回答:
初めて飼ったペットの名前は？	
子供のときに好きだった食べ物？	
子供のときに住んでいた町は？	

At the bottom right of the dialog is an "OK" button.

5-4-4. OmniPass へのログオン設定

Windows ログオンユーザが OmniPass の機能を使用するためには、OmniPass へログオンする必要があります。

OmniPass コントロールセンタを起動します。

右画面より、「システム設定の変更」をクリックします。



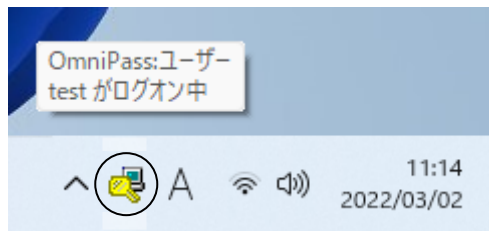
「起動オプション」より 3 種類の OmniPass へのログオン方法を選択することができます。

- (1) 現在の Windows ユーザとして OmniPass に自動的にログオンする (デフォルト値)
- (2) 起動時に手動で OmniPass にログオンする
- (3) 起動時に OmniPass にログオンしない

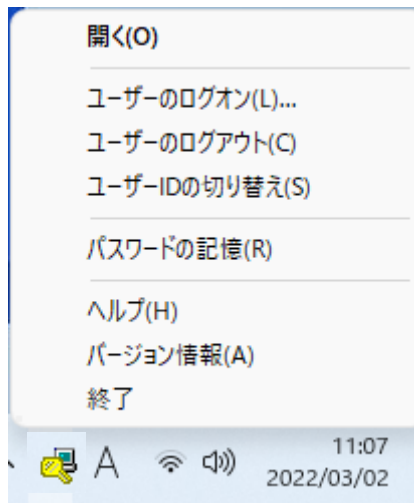


- (1) の設定が選択されていると、Windows にログオンした後、Windows 起動後に OmniPass に自動的にログオンします。
- (2) の設定が選択されていると、OmniPass は Windows 起動後にユーザーに OmniPass にログオンするように要求します。
- (3) の設定が選択されていると、OmniPass はユーザーに OmniPass にログオンするように要求しません。

タスクバーに登録された鍵マークの OmniPass
上にカーソルを移動することにより、
現在 OmniPass にログオンしているユーザー名
を確認することができます。



同様にマウス右クリックより、「ユーザーの
ログオン(L)」もしくは「現在のユーザーの
ログアウト(C)」を選択することにより、
Windows を起動したまま OmniPass ログオン
ユーザーを切り替えることができます。



5-4-5. 暗号化／復号化の設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、

「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「ファイル暗号化設定の変更」をクリックします。



「アルゴリズムの選択」から、

- RSA Data Security's RC2
 - RSA Data Security's RC4
 - Data Encryption Standard (DES)
 - Two Key Triple DES
 - Three Key Triple DES
- を選択することができます。



5-4-6. サウンドの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「ユーザオーディオ設定の変更」をクリックします。



OmniPass のイベント（例えば、ログオン認証に成功した時、認証が拒否されたときなど）をサウンドでユーザーに通知する方法を設定できます。



5-4-7. タスクバーヒントの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「ユーザに表示するタスクバーヒントの変更」をクリックします。



タスクバーのヒントを表示するという設定にしていれば、OmniPass は「パスワードを記憶」できるタイミングを常に通知しますので、ユーザーにログオンを要求する任意の認証イベントを記憶することができます。



5-4-8. 認証ウィンドウの設定

OmniPass コントロールセンタを起動し、

「ユーザ設定の変更」を選択します。

右画面より「認証ウィンドウ設定の変更」をクリックします。



「透明な認証ウィンドウ」を選択すると、
認証画面の透明度を設定することができます。

